

平成29年度 我孫子市水道事業運営審議会会議概要

- 1 招集日時 平成29年6月29日（木）午前10時開議
- 2 招集場所 水道局経営会議室
- 3 出席委員 藤沢 朋 成塚 充大
宮本 哲夫 永嶋 久美子
山本 憲志郎 渡辺 康子
池田 進 喜多村 隆
黒川 真喜子
- 4 欠席委員 中野 優
- 5 出席説明員 水道局長（長塚 九二夫）
経営課長（中野 伴春）
工務課長補佐（山下 透） 工務課長補佐（川村 憲司）
経営課長補佐（岡本 明美） 経営課長補佐（遠藤 忠信）
- 6 事務局職員 経営課主査長（洞毛 秀男） 経営課主査（寺田 智子）
- 7 会議に付した事項
議題
1. 副会長の承認について
2. 平成28年度我孫子市水道事業会計決算見込みについて
3. 平成29年度我孫子市水道事業会計予算概要について
- 8 会議公開の状況 公開
- 9 傍聴者 2名
- 10 会議の内容
(1) 局長挨拶
昨年の今頃は、利根川上流ダム群の渇水により、10%の取水制限が実施されたことにより、市民の皆様には大変ご心配をお掛けしましたが、今年は、梅雨時の雨が少ない傾向にはあるものの、現在のところ、水利調整が必要となる程ではないことから、少し安堵しているところです。

さて、本日は、市長からの諮問案件2件を中心にご審議頂くこととなりますが、議事に入ります前に、私から我孫子の水道事業の現況や課題などについて少し報告をさせていただきます。

まず、我孫子市の水道需要の動向ですが、人口の減少はやや鈍化傾向にあるものの、皆様ご承知のように、節水型機器の定着化やペットボトル入り飲料水の普及などの構造的な要因により、給水量は、一人当たりで見ても、総体としても依然減少傾向を続けております。

水道需要の減少は、当然、事業運営の源泉である料金収入に大きな影響を及ぼしておりまして、給水収益を軸とする営業収益だけでは、事業費用を賄えないという状況になっています。平成28年度も決算の数値で見ますと、営業外収益である給水申込納付金などにより、事業収支全体では、何とか実質的な黒字を確保しているものの、営業収支では、平成23年度以降6年連続で赤字となっており、経営面では、依然厳しい状況が続いています。

しかし、いかに厳しい状況下であっても、市民生活を支えるライフラインの担い手として、安全な水を安定して供給していくための取り組みは着実に進めていかなければなりません。

そのため、平成27年度からは、より効率的な事業経営を目指して、浄水場や料金業務などにおける包括委託を拡大し、官民連携による業務への創意工夫と、これに伴う組織の改編で職員4名を削減するなどのコスト縮減に努め、これらの効果は、平成28年度決算において、事業費用の縮減にもつながってきているところです。

また、施設面では、平成26年度に浄水場の耐震化はすべて完了したほか、妻子原浄水場の心臓部となる室内配管更新工事は、27年度と28年度の2か年で予定通り完了しました。一方、水道管路については、老朽化の進行により、ますます更新需要が高まる傾向にありますので、今後は、主要な管路の更新を軸に優先度や効率性を踏まえて取り組むこととしています。

事業全体を俯瞰しますと、水道需要の減少が進む中、一方では増え続ける施設の更新や資金需要にどのように対応していくのか、また水道技術の継承や少数精鋭の組織を支える人材の育成をいかに図るのか、さらには、地震や水質事故などによる大規模断水への対応など、危機対応施策の強化をいかに図るかなど、水道事業が将来に向けて抱える課題は多岐にわたります。

我孫子市水道局では、これらの課題にしっかりと対応していくために、本年4月に局内プロジェクトを立ち上げ、本年度（29年度）と来年度（30年度）の2か年にわたって、事業の現状を多面的に検証し、次世代につなげる我孫子市の水道事業の在り方を示す「水道事業ビジョン」の策定に着手したところです。

今後は、審議委員の皆様にも、「水道事業ビジョン」のご審議をいただくこととなりますが、私共としましては、将来にわたって信頼される確かな事業運営を持続していくために不断の経営努力を積み重ねる所存です。本日の審議

は、このような状況も踏まえていただき、忌憚のないご意見を頂ければと思います。簡単ですが、私の挨拶とさせていただきます。

(2) 職員の自己紹介

(3) 議題 1. 副会長の承認について

前副会長矢野勝明氏の退任により、残任期間を後任の成塚充大氏にお引き受けいただくことで承認された。

(4) 議題 2. 平成 28 年度我孫子市水道事業会計決算見込みについて

中野課長より説明

<意見等>

◇意見・質問 ◆回答

◇喜多村委員

昨年の審議会でも報告されたが、営業収支は赤字でも、次の計画までは料金は上げないとのことだった。その分、内部で工夫されていると思うが、今の料金でこの状況だということ、漏水率の低さや職員数の削減の実施など、努力している点も、「あびこの水道」等で市民にアピールしたらどうか。

◆中野課長

良いことも悪いことも市民の皆様には、きっちりお伝えするべきだと思っている。

現行の事業計画が平成 30 年度を目標年度としていることから、現在、31 年度からの次期計画の策定に着手しているところである。その計画を策定するにあたり、現況でどういう課題があるのか、料金の適正化ということについてもどこかで考えなければならないこと、そのための努力の方向性や具体的なロードマップを現状のベンチマークを含めて公表すべきだと思う。包括委託では、浄水場関連や料金給水関連で、民間事業者に相当な業務を担ってもらっている。その民間のプレーヤーへの水道局としてのモニタリングにおいて、どの程度業務水準に達しているのか達していないのかということも含めて市民の皆様にはお伝えしていかなければならないと考えている。

◇喜多村委員

決していいことだけじゃないと思う。職員が減るということは、業務委託が増えて何かあった時は職員そのものが足りないということになる。からくりもなく動くものでもないのこういうリスクもあるということをも市民に知らせる努力をした方がいいのではないかと思う。

◇山本委員

取水・受水量について、地下水と受水の 1 m³当たりの費用はどのくらいか。

昨年は、地下水の取水量が増えているが、全体の給水量は減っている。何か理由があるのか。

◆中野課長

受水する水道料金は、基本料金と使用料金から成り立っているが、使用料金は1 m³ (トン) 当たり10円、地下水については湖北台浄水場で高度処理をしているが、このコストは精緻には算出できていないのが現状である。もしかしたら10円を超える可能性もある。井戸も長期的には寿命があるという技術的な知見もあり、そのメンテナンス費用もかかるが、取水そのものの能力が創設当時よりも落ちているのが現状である。井戸の延命をどう図るか、自己水源である地下水の活用のあり方をコスト面も含めて、次期計画の中で精査していこうと考えている。

◆川村課長補佐

昨年度取水量が多かった理由は、渇水ということで取水制限があり、北千葉広域水道企業団からの受水量が減ったため、それを調整するために地下水を多く利用したということである。

(5) 議題3. 平成29年度我孫子市水道事業会計予算概要について

中野課長より説明

<意見等>

◇意見・質問 ◆回答

◇永嶋委員

平成29年度水道事業会計予算概要4ページ、<I 安全で快適な水の供給>水道未普及地区の解消とあるが、未普及のところはここだけなのか。他にもあるのか。

◆中野課長

我孫子市は、全域を給水区域にしているので手の届かない地区は無い。ただし、本管は整備されているが、本管に繋ぐまでは自己施行をしないといけない場所もあり、かなりの費用負担になる。そのような家が複数ある地区については、要望書を提出して頂き、その要望に応じて水道局で資金を投じて布設をしている。このような場合は拡張整備となる。

◇池田委員

本管の耐震化工事(更新工事)に伴い、宅地内の水道管の耐久年数はどのくらいなのか、既存の管は更新した方が良いのか。ガス管などは宅地内でも点検しているが、水道については市民に対して更新の普及やPRとか考えているか。

◆遠藤課長補佐

給水装置の話かと思うが、宅地内の給水管は30年くらい経つと、過去に使用していた材料にもよるが、赤水等が発生することがある。宅地内の給水

管はお客様の資産ですので各人で改修していただく必要があるが、そういうことに関する啓発等を行ったことはない。道路から宅地内の第一止水栓までは給水装置の工事が完了した時点から水道局に無償譲渡していただいていますので、その部分は水道局が維持管理している。その部分の漏水等の対応は水道局で行っている。布設替えについては、本管の改修工事に合わせて第一止水栓までは交換している。

◇池田委員

案外漏水が発生するのは第一止水栓から中が多く、水道料金明細の使用量で気づくことが多い。それは多分自然に劣化したものが多いと思う。また、本管の漏水については、料金に反映されないことと、かなり深いところに埋設されているので、漏水が発覚するには時間がかかると思う。それに対してはどのような対応をしているか。漏水調査をやっていけば漏水は発見されるだろうが、その費用対効果はどうか。

◆遠藤課長補佐

漏水調査については、毎年、対象件数5500件位で委託して実施している。特に鉛管とビニール管は漏水しやすいので、そこを中心に行っている。その中で、約40件前後の漏水が発見されて、修繕工事を行ったことで、無効水量の抑制効果につながった。なお、宅内漏水の場合はお客様に通知連絡している。

◆中野課長

毎月検針、毎月徴収を行っている自治体はあまり多くない。毎月検針しているメリットは、例として、前月までは一定の使用量があったが、今月はゼロに近いなどの変化に気づき、その場合は、福祉部局との迅速な連携に繋げることができる。また、漏水の早期発見にもつながり、その場合は直ちにお客様にお知らせしている。また、漏水により料金が高額になってしまった場合は、きちんと修繕をしていただければ、減免の措置をとることもある。漏水については、かなりの神経を使って、放置することを避けるという対応はしているが、宅地内配管の老朽化による漏水はあると思う。特に給水管の継手部分の漏水は多い。

◇山本委員

来年度予算で受取利息および配当金が非常に小さい値になっているのは、単に資金運用を考えていないのか、それとも内部留保の額自体が非常に厳しい状態となっていて、運用自体が考えられない状況になっているのか、教えていただきたい。

◆中野課長

資金の運用については、28年度に国債の償還の受入れがあったが、それが最後の取組だったので、現在、保有する有価証券はない。現金預金残高として32億円ほどあるが、実際に運用資金として動かせるのは25億円程

度になる。25億円というのはおよそ1事業年度の事業費用に値するので、長期での運用は考えていない。

水道事業は自己資金を原資として創設している訳ではないので、昭和43年創設当時は、企業債を原資として事業を始めている。現在、企業債の残高は6億円を切っている。同じ規模の事業体でみると、平均60億円位なので、全国的に見ても負債は少ない状況にある。今後は、将来世代への適正な負担も踏まえて資金調達を考えなければならないが、30年度まではあらたな資金調達をせず、乗り切りたいと考えている。

(6) その他 平成29年度の利根川水系ダムの貯水量について
川村課長補佐より説明

<意見等>
なし

◇意見・質問 ◆回答

(7) その他 我孫子市水道事業基本計画（水道ビジョン）策定基本方針について
中野課長より説明

<意見等>

◇意見・質問 ◆回答

◇喜多村委員

「強靱」のところで、災害に強く、たくましい水道とありますが、昨年も申しあげましたが、連携する自治体同士の机上の訓練だけではなく、演習も行ってみてはどうかという点で、地震のことは考えられるとは思いますが、必ずしも自然災害だけではなく、テロ等の対応についても、国から指示が出ているとは思いますが、我孫子市だけで検討できるものではないが、是非、アンテナを高くして、もし水源に異常があったら一網打尽ですから、その場合はどこにどのような影響が出るかという検討も新計画に入れてほしい。全てはできないのだからできることとできないことを判断しておくべきだろう。

◆中野課長

安全というところにも少し触れさせていただいていますが、水安全計画策定もこの計画の一要素となっている。水安全計画というのは、浄水場の水源からお客様の蛇口に至るまでのプロセスにおいて、どのような危害要因があるのかということ进行分析した上で、現状脆弱なところをどう改善していくのかということの計画になる。当然そこにはテロ被害の想定や水源水質の汚染など色々な要因があると思いますので、その要因ごとの対応についてもきっちり安全計画の中で考えていかなければならないし、その体制も構築しなければならない。実地訓練ということになると、高い危機意識を現実的にもってその訓練をしているかという点では、なかなか弱い部分も

あるが、水道の場合は、県や協会や国の連絡体制においてネットワークの規律密度が高く、どこかの事業体で被害があると協力体制が割と首尾よく動くようになっている。そういった意味では、立川で行われた日水協合同の訓練にも初参加したことも、職員への啓発につながっている。まだまだ意識として足りないところや施設として不十分なところがあるので、何が必要で何が足りないのかをきちんと市民の皆様にお伝えしながら、施策の中に取り込んでいきたいと考えている。

(7) 傍聴者の意見等

市民への水道事業のPRについて、現在、北千葉広域水道企業団の広報紙「水音」、我孫子市水道局の広報紙「あびこの水道」、市ホームページで行っているが、広報誌は活字ばかりで読む気にならないし、特に市ホームページは活性化した方が良い。分かりやすくイラストなどを入れた方が良い。

小学校13校、中学校6校の生徒に水道事業の見学をさせて、水の大切さを教え、未来の若者を育てるべきである。

水道事業ビジョンについては、50年、100年先を見据えつつ、しかし見極めきれないけれど、足元も見ながらという2つの視点を持って進めているということが特に印象に残った。